

青森県 JAごしょつがる

農業者の所得増大・農業生産の拡大

組合員の要望に応える身近なJAへ

「出向く体制による対話型営農活動」を積極的に進める

※シンカは、以下の3つの意味を含めた言葉。

自己改革の進化から深化へ、真価を発揮する3つの「シンカ」



営農指導員と各担当が組合員の要望に対応

JAごしょつがるは、役職員が積極的に生産者に出向き、対話を重ねながら生産者の要望に応える「出向く体制による対話型営農活動」を2023年度から始めています。インターネットの活用が進み、農家組合員との対面での接点が少なくなる中、組合員と最も接点がある営農指導員と共にライフアドバイザー（LA）や融資担当などが同行訪問し、例えば農業機械の更新や低金利の農業資金の説明など、生産者のさまざまな悩みや課題への相談に応じています。

23年度は、目標の1200戸に対して、1.6倍の1971戸を訪問しました。

営農指導員とLAがタッグを組んで組合員を訪問

24年は、営農指導員とLAがタッグを組んで組合員を訪問し、聞き取った組合員の実情をふまえて共済を提案するなど、組合員の営農とくらしに寄り添った活動を行っています。

購買事業でも、作付け状況に合った肥料・農薬の数量を提案し、注文につなげるなど成果を上げています。

JAの担当職員は「信用や共済など、営農指導員以外の職員も組合員との顔つなぎができ、組合員の相談に応えやすくなった」と手応えを話します。



組合員から話を聞くLAと営農指導員

組合員に寄り添い地域に不可欠な存在へ

24年度は7月～12月末までに869戸を訪問し、今年度も目標を大きく上回るペースで組合員への訪問を重ねています。

今後は、出向く体制を通じた情報提供の充実化に加え、ニーズに合ったサービスの提案・提供を進めていきます。

JAの担当職員は「組合員の中には、『知らない職員が増えてJAの店舗に行きづらくなった』という声もあります。自ら出向き、組合員との関わりを増やすことで、気軽に職員に相談できるJAを目指します」と意気込みます。組合員に寄り添い、地域に必要な不可欠な存在となるよう、足を運び続けます。

組合員の声



共済事業

知っている指導員がLAを紹介してくれたことで、これまで誰に聞けばいいのか分からなかったことなども、担当者が分かって気軽に聞きやすくなりました



購買事業

担当職員が足を運び、頑張っている姿を見ているからJAに注文しています

出向く体制による対話型営農活動(戸)

2023年度		24年度 (12月末時点)		25年度
目標	実績	目標	実績	目標
1200	1971	1200	869	1200

問い合わせ JA全中 JA改革・組織基盤対策部 JA改革・組織基盤対策課 ☎03-6665-6240 ✉jakaikaku.s@zenchu-ja.or.jp

JAグループのホームページから、自己改革の成果をまとめた動画や全国のJAの取り組みがご覧になれます。

<https://org.ja-group.jp/challenge/>

発行/JA全中(一般社団法人 全国農業協同組合中央会)



JAグループ

耕そう、大地と地域のみらい。